

NGO 神戸外国人救援ネット・ニュースNo.54

NGO Network for Foreigners' Assistance KOBE NEWS No.54



発行／NGO 神戸外国人救援ネット(代表／飛田雄一)

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 1-28-7 TEL&FAX:078-271-3270

ホットライン専用 TEL:078-232-1290

E-mail:gqnet@poppy.ocn.ne.jp * <http://gqnet.webcrow.jp/>

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

★ 巻頭言★

「社会起業と外国人支援」

武田文(関西学院大学人間福祉学部社会起業学科)

「社会起業」、「社会的企業」、「ソーシャルビジネス」、「コミュニティビジネス」といった言葉を、皆さんは耳にされたことがあるでしょうか？これらは、営利の追求だけを目的とせず、事業を通じて社会的な課題の解決を目指す取り組みを表すものです。欧米では1990年代から、日本でも21世紀に入ってから次第に注目を浴び、メディアなどでも多く取り上げられるようになってきました。世界で最も有名は社会起業家といえば、2006年にノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行の創設者ムハマド・ユヌスさんでしょう。銀行というビジネスモデルの中で、無担保で少額の資金を貸し出すマイクロ・クレジットを通じて、500万人以上の貧困層の女性たちの生活水準の向上に貢献したことが評価されました。社会起業という言葉を目にしたことがない人でも「フェアトレード」という言葉を聞いたことがある人はいるかもしれませんが。フェアトレードも、公平な貿易を通じて途上国の生産者の生活向上を目指す社会起業の一つだと言えます。

「社会起業」的な取り組みは、日本の外国人支援の分野でも行われるようになってきています。長田区にある多言語センターFACILは、在住外国人が必要とする情報の翻訳や通訳者の派遣を通じ、外国人を含む地域の住民や行政機関、医療機関、地域の企業などからの多言語・多文化なニーズに様々な形で応えるとともに、外国人に翻訳者や通訳者として雇用の機会も提供する社会起業です。また、フェアトレードを含むさまざまな社会貢献の事業を展開す

る株式会社ボーダレスジャパンは、外国人というだけで部屋を貸さない不動産業界の偏見、また留学先で現地コミュニティと接点なく帰国するという問題に対し、「外国人と日本人と一緒に暮らす生活空間」を提供する多国籍シェアハウスを東京、大阪、韓国、台湾で120以上運営し、地域の多文化共生に貢献しています。

もちろん、社会的な課題の解決と事業(生産性)を同時に目指す社会起業は、「言うは易く行うは難し」です。たとえば、障害者に雇用機会を提供する社会起業を考えてみましょう。雇用機会にもっとも恵まれないのは重度の障害を持つ人たちですが、生産性を追求すれば軽度の障害者を雇用したほうがよいということになります。確かにこうした限界もある社会起業ですが、2016年7月、外国人支援の新しい取り組みが神戸元町(南京町)に誕生しました。日本社会の中でさまざまな問題を抱えながら暮らすアジア女性たち。神戸アジア食堂バル SALAは、こうしたアジア人女性たちの強みである「母国料理の腕前」を活かし、就労の機会を通してアジア人女性たちのエンパワメントの実現を後押ししています。このSALAの素敵な空間で美味しいアジア料理とお酒を堪能することで、皆さまも、問題を抱えながら京阪神で暮らすアジア人女性たちのエンパワメントの後押しをしてみたいはいかがでしょうか？

神戸アジア食堂バル SALA

<http://www.hotpepper.jp/strJ001146730/>
神戸市中央区元町通 2-3-16 食堂館 1F

移住連ワークショップ2016 in 徳島 参加報告

2016年6月4日、5日に第11回目となる移住連ワークショップが徳島市内の徳島グランドホテル借楽園にて開催されました。中村一成さんによる特別講演「ヘイトスピーチ／クライムに対峙するために～徳島県教組襲撃事件の取材から」により幕が開き、技能実習生法案、改定入管法案、人種差別禁止法案に関する報告がありました。今年は普段の移住連ワーキンググループがジョイントする形で、5つの分科会が用意されました。(1)労働・技能実習 (2)移住女性／貧困 (3)改正入管法・住基法／難民・収容 (4)医療・福祉・社会保障 (5)人種差別・ヘイトスピーチです。2日目は各分会からの報告、そして被災地熊本からの報告もありました。「私たちの共同課題／移住連の今後の課題」を共有し、今年の移住連ワークショップは幕を閉じました。以下に救援ネットから参加した4名の報告をご紹介します。

こんにちは、NGO神戸外国人救援ネット実習生・西原雅子です。今年5月から救援ネットで主に電話相談、会議、セミナー等に参加させていただいています。

去る6月4日、徳島で行われた移住連全国ワークショップに参加しました。救援ネットからは、飛田さん、森木さん、薮本さん、草加さん、村西さん、戎さん、川口さん、西原の8名が参加しました。森木さん、川口フローラさん、村西さん、私は神戸から徳島まで戎カリナさんの運転する車で向かいました。

初めて参加した移住連ワークショップは、多くの学びがありました。全国の取り組みに対して感動したり、現状に疑問を感じたり怒りを覚えることもありました。今回印象に残ったことを挙げます。

移住女性／貧困の分科会では、全国各地での外国籍女性の就労に向けた取り組みが報告されました。日本語を習得した上で、外国籍女性が仕事を選択でき、経済的にも精神的にも自立することが求められているように感じました。特に、徳島県の報告は行政や経済関係者、福祉関係者、中小企業、日本語教室が一体となっており、徳島県で形成されているネットワークに感銘を受けました。私は今まで社会福祉やソーシャルワークを学んできましたが、就労支援に対する考えが変わるきっかけとなりました。外国人支援においても他職種連携することが重要であり、行政とNPO・NGO、福祉と経済・経営を超え、そのネットワーク形成することの難しさなども感じました。他にも全国各地の外国人支援関係者が日常でされている支援内容、支援活動が報告されました。外国人が比較的多く暮らす都市部と、過疎地域も共通点が多いように感じます。例えば、国際結婚する外国人女性像や、DV被害、就労における課題などです。外国人女性が抱える課題は、入管法などのマクロ視点から、家庭や心の問題のミクロ視点など多岐にわたっています。救援ネットが毎週の支援で積み上げてきた実績を、今度は神戸から全国へ発信していきたいと思います。



【写真】全体会の様子

また、話は異なりますが、私は福岡県大牟田市出身です。九州の外国人支援団体の方やフェアトレード商品を販売されている団体、国際交流センターの方々と繋がる事が出来ました。色々な職種の方々と会い、良い刺激を受けました。これから、私はフィリピンやネパール、アメリカ、旧ソ連圏、アフリカ圏、朝鮮(南北関係なく)で暮らす友人や先輩、親戚と共に、また新しい時代を担えるように、しっかりと力をつけていこうと思っております。2020年のオリンピックを海外の友人を招いて楽しく応援出来るように、これから精進していきます。

西原雅子(関西学院大学大学院)

**2016移住連ワークショップIN徳島 ー医療・福祉・社会保障分科会ー
「外国人の医療・福祉・社会保障相談ハンドブック」の発行を確認**

6月4日、5日と移住連(移住者と連帯する全国ネットワーク)のワークショップが徳島で開催された。

「医療・福祉・社会保障」の分科会は、現在の外国人の医療・福祉・社会保障の最前線で取り組んでいるメンバーが集まる分科会である。

今回のワークショップでは昨年の省庁交渉の報告、2012年の新たな在留制度の施行により外国人登録制度が廃止され住民登録に移行したことにより非正規滞在でも利用できるはずの制度が自治体によっては利用できなくなっている実態、医療通訳制度の全国的な状況などの報告と情報共有が行われた。

私からは生活保護と国民健康保険を中心に現在の制度運用の現状と問題点を報告させてもらった。また、外国人に対して医療、福祉、社会保障制度の運用が誤った運用がなされないような取り組みが必要とされる中、「外国人の医療・福祉・社会保障相談ハンドブック」の発行についても確認され、11月を目標に編集をしていくことが確認された。それを受けて、各種制度の運用とその根拠を示した「相談ハンドブック」になるよう、現在、関西と関東の外国人医療・生活ネットのメンバーを中心に目下編集集中である。完成の折にはぜひ多くの人に活用していただけたらと考えている。乞うご期待。

嵩本郁(NGO 神戸外国人救援ネット)

私は、自分みたいに外国から日本に移住している人たちの為に、少しでも、安全に安心して暮らせるように、活動されている人や団体さんがこんなにも大勢いる事にすごく感動と感心の気持ちがいっぱいになりました。

移住連ワークショップに参加するのは初めてでした。全国で外国人たちの為に活動してる団体さんの集まりがあると聞いて、元々興味があったので、ボランティア活動の経験もまだ浅いのですが、自分の為に勉強になるかも知れないという理由で参加しました。会場に着いたら、皆さんの目が真剣で、自分たちの団体の活動やこれから移住者や難民たちが抱えている問題をどうしたら無くせるのか、対策を色々考えている気持ちが伝わってきました。特に印象的なのは徳島県のやっている活動に興味をふくらみました。確かに、私の周りにも生活費に困っているお友達や、知人からの相談を何回か受けていました。離婚をして、母子家庭で働かないと行けないけど、日本語があんまり理解できない、資格がない、小さいお子さんがいるから、働きたくても雇ってくれる所がないから仕方なく夜の飲食店でほとんど働く事が選んだ。体にも、精神的にも親だけじゃなくて、お子さんにも影響は良くないのは事実です。親と一緒にいるはずの時間に親がいない。私が今まで見てきたお子さんが反抗的になって親がストレスで子供に暴力をふるってしまったケースは少なくありません。徳島県は移住者たちの生活を安定するために、働けるように、日本語を勉強させて、自分がやりたい仕事の資格が取れるよう手助けをして、手を伸ばしている事だけでなく、働ける場所を与えてくれる色々な業界や医療関係の協力にも、凄く感動と感心に胸がいっぱいになりました。

移住者の多い神戸にも、安定な仕事をできるように、学校に通わせて、その間に生活のサポートとお子さんを預かってもらえるように、できたらいいなと願っています。これからも、私自身も、出来ることがあれば、活動に参加をして行こうと思っています。

川口フローラ(NGO神戸外国人救援ネット タガログ語通訳者)

移住連に感謝

2016年6月4日に徳島県で移住連のワークショップに参加しました。二回目の参加ですが、前回は北九州で移住連のフォーラムに初めて参加させていただきました。全国から参加者が集まり、我々外国人の権利を守られていないことや差別問題、外国人労働者の問題などについて皆さんが一生懸命取り組んでいます。全国的に様々な問題点があげられ、実際の体験の発表も行われました。特に、外国人労働者の問題では、技能実習の制度を通して外国人労働者を受け入れるけど、このような外国人労働者にあった法律がきちんとできていないことから日本人による被害にあった外国人労働者や、これから外国人労働者が増えることがわかりました。また、言葉の壁のため、仕事を見つけることが困難となっている、日本に我々のような定住外国人が、日本語を学ぶ機会や学ぶ時に育児の問題等々が重要となっていることも課題になりました。こういった様々な問題や対策、そして、私たちの声を政府に届けてくれるのは、移住連に関わっている皆さんです。

実際に経験したのは、実習生が困っているときや問題が発生した時、実習生のことよりも、送り出し機関や受け入れ機関、実施先の会社側がトカゲの尻尾切りのような、自分の立場を真っ先に守り、実習生が最終的に一人で自分の身を守らなければならない立場になってしまいました。そしたら、移住連に関わっている人に連絡して、助けを求めました。移住連の方々やNGOの方々がいなければ、このように困っている実習生たちや我々困っている定住外国人は、誰が助けてくれるでしょう。また、資格外活動違反で逮捕された実習生たちがいて、無罪だったはずのことでしたが、10日間も留置所に入れられ、やられた同じ実施先会社の責任者が弁護人を雇い、会社のことだけを守ろうとしていた。その後、実習生たちは釈放されたが、やりされた会社を訴えたいと思っても、「不起訴処分」だと監理組合の人から説明を受けて、そのまま終わらせたのです。このように、実習生たちに関わっている送り出し機関や受け入れ機関、実施先の会社の都合が悪くなると実習生たちの権利が放棄されるのです。そのため、移住連に関わっている皆さんが毎年このようなフォーラムやワークショップなどを熱心に取り組んでいるでしょう。

自分の権利を知らない外国人が少なくはないでしょう。知っていても、自分が外国人である以上、無理があると思ってしまう人もいるでしょう。だけど、移住連の方々是我々外国人が日本の社会のために活躍していることを理解して、日本の社会の一員としての権利を平等に与えられるよう働きかけてくれていることが分かりました。

私は、移住連のワークショップに参加したことは、とても嬉しかったです。また、移住連では主に外国人が活躍していると勘違いし、思ったよりも、多くの参加者がほとんど日本人で、移住連の方々が我々外国人のために活躍し、いろいろと考えてくれることや守ってくれることにとても感動しました。

本当に移住連の皆さんに感謝しています。「鳥井さんが国会議員となればいいよね」とつい願ってしまいますね。来年も、出来れば参加させて頂きたいと思います。

戒カリナ(NGO 神戸外国人救援ネット
タガログ語通訳者)



【写真】淡路島と徳島を繋ぐ吊り橋・鳴門大橋
ワークショップの帰りに、南あわじサイドから橋と渦を見ました。

株式会社ラッシュ・ジャパン助成事業 支援者向け「やさしい日本語」講座を実施しました

今年度は株式会社ラッシュ・ジャパンと六甲アイランド基金、2つの大きな助成金を頂くことができ、様々な支援者向けセミナーを開催しています。6月18日(土)にまず1回目のセミナーを開催しました。「やさしい日本語」講座です。「やさしい日本語」講座というのは、日本語を勉強している外国人が参加する講座なのか、との質問もありました。今回私たちが主催したのは、なんらかの場面で外国人に関わる「日本人」が、日本語があまり得意でない外国人に話す際に使える「やさしい日本語」＝外国人にとって「わかりやすい日本語」の講座です。

今回、講師には神戸YWCA学院主任講師の福井武司さんをお招きしました。神戸YWCAでは「やさしい日本語」の普及に積極的に取り組んでおられます。私たちが生活する地域でも、外国人を見かけることは普通



のようになってきました。しかし、それでもまだまだ多くの日本人が、「外国人だから日本語が通じないんじゃないか」「外国人だから英語で話しかけないといけないんじゃないか」と思っていることでしょう。実際はそうではなく、普段私たちが使っている日本語に少し工夫をすれば伝わりやすい、ということはこの講座では教えていただきました。普段の生活の中のゴミの出し方から、震災や火災など緊急時の情報提供まで、「やさしい日本語」があれば、必要な情報を伝え、コミュニケーションを取ることができます。

講座内では、例も交えてお話を伺いました。例えば、午後11:00、隣の人がパーティーをしているようで、うるさい。先週も同じように騒が

しかった。相手は最近引っ越してきた外国人で顔ぐらい知っている。という状況があった場合、どのようにして、静かにしてほしいことを伝えますか？参加者からは、「隣の〇〇です。いつも楽しそうでいいですね。」と話を切り出す。「もう少し小さい声をお願いします。」「子どもが寝られないので…夫が朝早いので…」「壁が薄いので響きますよ」という案が出てきました。日本人は、波風を立てたくない。自分が～とは言いたくない。直接的に言うのが怖い。申し訳ないのですが…と切り出すことが多い、ということが分かりました。しかし、これらはあくまで日本人に対する配慮であり、外国人にとってはわかりにくい日本語になってしまうのです。

他にも、「もっかい、言って」「今朝、新聞読んだ？」「和食」「火気厳禁」「コンビニ」などの普段何気なく使っている言葉をやさしい日本語に変換する方法も学びました。

ポイントは…

- ① 伝えきること
- ② 非言語コミュニケーションが大事(アイコンタクト・ボディランゲージ)
- ③ (日本人がよく使ってしまう)「察して」はNG
- ④ 「～は～です。」がわかりやすい
- ⑤ 説明はNG (説明が多いと余計わかりにくくなる)
- ⑥ 例はOK(レアリアを使うこと)

最後に、先生から、あるお題が渡され、どのようにすれば「やさしい日本語」で外国人に伝えられるかを考えました。そして、実際に2名のフィリピン人女性に登場してもらい、グループ内で考えた「やさしい日本語」で伝えます。結果は100%とはいきませんでしたが、まずまずの結果だったと思います。

皆さんも是非「やさしい日本語」を学び、使ってみてください。

報告者 西原雅子、村西優季(NGO 神戸外国人救援ネット)



「熊本地震！外国人被災者救援活動の歩みと課題を考える シンポジウム」（2016年7月3日）に参加しました

飛田雄一（NGO神戸外国人救援ネット代表）

くまもと県民交流館パレアで、開かれました。主催は、「コムスタカー外国人と共に生きる会」。会場にあふれるほどの約80名の参加者がありました。私も熊本の友人のお見舞いもかねて熊本を訪ね、このシンポジウムに参加しました。代表の中島眞一郎さんが移住者と連帯する全国ネットワークメーリングリストへの投稿をもとに報告させていただきます。

外国籍の参加者が目立ちましたが、フィリピン・中国・韓国・インドネシア・パキスタンなど20名ほどが参加されていたとのこと。

最初の報告者である熊本市国際交流振興事業団事務局次長の勝谷知子さんは、「熊本市国際交流会館での取組み」をテーマに、熊本市国際交流会館が避難所となり、保護した外国人や日本人被災者の状況、避難所生活の様子とともに、避難所運営の大変さ、多言語情報発信御遅れ、館外の他の避難所でくらす外国人の状況把握の遅れなど課題について報告がありました。

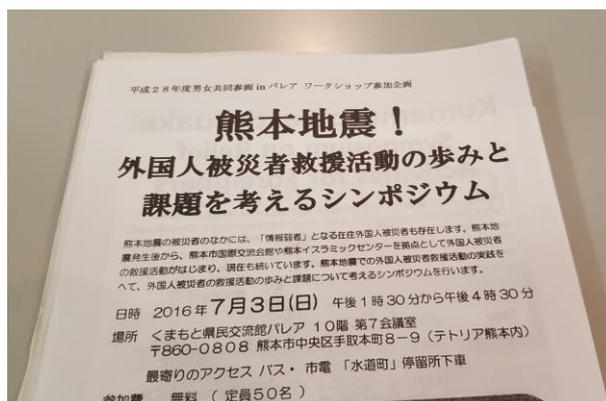
次に、熊本イスラミックセンター代表マールスイスワヒユさんから「熊本イスラミックセンターでの取組み」をテーマに、熊本地震被災直後から、熊本大学の避難所に避難していた留学生や家族のなかのイスラム教徒に、避難所で提供される食事が宗教上の理由で食べられないため、イスラミックセンターでハラール食を運び込んで要食べに来てもらう活動、そして、インドネシア大使館や全国のイスラム教徒から寄せられた支援物資（ハラール食品とそれ以外のハラーム食品や救援物資）をイスラム教徒の被災者と、日本人被災者の暮らす避難所へ救援や支援物資を配達していく活動など報告があり、課題として、被災現場でのコーディネーターの必要性、日本人の協力者の必要性があげられました。

3番目の報告者として、コムスタカー外国人と共に生きる会代表の中島さんが、「コムスタカの被災者支援活動の取組み」をテーマに、地震発生の翌日の4月15日から多言語情報の発信、熊本市国際交流会館での避難者へ炊き出し支援、被災外国人の個別相談等の取り組みと、国際交流会館が外国人向け避難所となったことの意義として、①熊本地震で、外国人対象のマイノリティ向けの避難所が誕生したこと、②外国の大使館や領事館、海外メディアに対応した災害時の市民外交・自治体外交の拠点となったことを上げました。

そして課題として、災害は想定外で起こり、事前のマニュアルは存在しないか使えない、その



【写真】地震で倒壊してしまった熊本城の城壁



場合地震直後に被災者の中で救援活動に取り組むコーディネーターがいるか否かで大きく異なってくる、時間の経過とともに救援物資の需要と供給の関係が反比例の関係にあり、需給調整が難しいこと、「官」と連携しながら「民間」の力を強め直性被災者を救援する方向での救援支援活動の重要性を訴えられました。

10分間の休憩後「熊本地震で被災者となって」をテーマに、熊本県内在住の韓国籍、中国籍、パ

キスタン籍、フィリピン籍、フィリピン出身者の5人の被災者の方から被災報告がありました。地震体験の恐怖、避難生活、その後の暮らし、救援活動など当事者でしかいえない経験や体験が語られました。私は、それぞれの報告を阪神淡路大震災のときのことを思い出しながらいましたが、この5人の被災者となった外国人の報告がとても印象的でした。

私も、阪神淡路大震災のときの体験から学んだことなどをお話ししました。新潟県長岡市から参加された2004年新潟中越地震の経験について羽賀友信さん（長岡市国際交流センター長）からの発言もありました。さまざまな質問、体験談が飛び出しとても寿実下シンポジウムとなりました。

私は、東日本大震災のときにも仙台での外国人支援シンポジウムに参加しましたが、それぞれ震災時の外国人支援の取り組みは、それぞれに課題も方法も異なることを学びました。お互いに経験を共有しながら、手を携えて進んでいきたいと思えます。

フィリピンにルーツを持つ若者の交流会に参加して

もりきかずみ（ワークメイト代表・NGO 神戸外国人救援ネット副代表）

7月10日、フィリピンにルーツを持つ若者（JFC＝ジャパニーズ・フィリピン・チルドレン）11名が、阪急十三駅近くの多文化共生センター大阪事務所に集まりました。今までの活動を通してこの中の何人かとは面識があり、生い立ちについても聞いていましたが、これだけの人数が集まって交流する場に参加したのは初めてのことでした。母親がフィリピン人で父親が日本人という共通項はあるものの、出生地や育った地域が異なり、日本語が苦手だったり、フィリピンの言語が話せなかったり、いろんな人がいました。

1990年代にフィリピン人女性からの相談が増え、JFCの父親探しなどを手伝ってきた経験から、94年に「アジア女性自立プロジェクト」を始めて20年以上になります。当時はフィリピン人女性の仕事作りを通して女性のエンパワメントを声高に訴えてきました。そして、時が流れ、今は子どもたちが活動する時代になっています。この度のJFC交流会は第三者としての参加でしたが、とても感慨深いものがありました。ここに集まったJFCの多くが生まれる前からJFC母子にコミットしていたのですから。

集まった人たちの多くが20代で、国籍は7人がフィリピン、4人が日本、両方持っている人が1人いました。父が日本人なので、全員日本国籍を持っていてもおかしくはないのですが、そこには法律の壁があり、なかなか父子関係を証明するのが難しいようです。言葉の壁も厚く、日本語を十分使える人が4人で、フィリピンから来日して2カ月しかたない人もいました。日本で生まれてフィリピンはあまり知らないという人も、また両国を行ったり来たりしているという人もいました。



フィリピンにルーツを持つ若者たちとはいえ、それぞれがおかれた環境によってスタートラインや方向性は異なってはいますが、最後に彼・彼女たちが色紙にかいた文言に私は何か共通のものを感しました。「JFCであることがKEY」、「苦しいが、元気にしてくれる」、「かけはしになる」、「偶然」、「支えあえる」など、JFCに生まれた「偶然」をどうチャンスに変えてい

くか、考えていこうとする姿勢がみんなの中に生まれているのではないかと思いました。そして、日本社会に望むことは、「外国人やJFCのような多文化を持つ人々に理解を！」というものでした。

2016年度 NGO 神戸外国人救援ネット主催セミナー

今年度、救援ネットでは様々なセミナーを開催しています。
ご興味・ご関心のあるセミナーがございましたら、是非ご参加ください

- ◆10月15日(土)14時～16時 会場:勤労会館 会議室307 参加費:500円
テーマ「外国人を取り巻く医療制度とCHARMの取り組み」
講師:青木理恵子さん、プラー ポンキワラシンさん / CHARM
- ◆11月26日(土)14時～16時 会場:勤労会館 会議室307 参加費:500円
テーマ「難民・移住者支援とシナピスの取り組み」
講師:ビスカルド篤子さん / カトリック大阪大司教区社会活動センターシナピス
- ◆2月18日(土)14時～16時 会場:勤労会館 予定 参加費:500円
テーマ「外国人を取り巻く社会保障制度」
講師:齋本郁さん

主な事務局活動

* 毎週(月・水・金)事務局開所、(金)多言語生活相談ホットライン

2016年

- 4月11日(月) GQネット運営会議
- 4月27日(水) ひょうごDV被害者支援連絡会議 定例会
- 5月9日(月) GQネット運営会議
- 6月4日～5日(土・日) 移住労働者と連帯する全国ワークショップ 2016in 徳島
- 6月13日(月) GQ ネット運営会議
- 6月18日(土) 「やさしい日本語」講座 開催
- 6月22日(水) ひょうごDV被害者支援連絡会議 定例会
- 7月10日(日) 移住連女性プロジェクト トヨタ財団助成事業 関西企画実施
- 7月11日(月) GQネット運営会議
- 7月14日(木) GONGO テーマ「高等学校教育の現状と課題について」
- 8月8日(月) GQ ネット運営会議
- 8月31日(水) ひょうごDV被害者支援連絡会議 定例会



事務局活動時間について

★事務局活動時間は以下のとおりです。★

事務局開所時間: 月曜日、水曜日、金曜日 13:00～18:00

生活相談ホットライン: 金曜日 英語、タガログ語、スペイン語(10:00～20:00)、
ポルトガル語(13:00～20:00)、中国語(事前予約制)

NGO 神戸外国人救援ネットの活動は皆さんからの会費・カンパによって支えられています。
今後ともご支援とご協力のほどよろしくお願い致します。

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

救援ネット年会費 3000円 年3回ニュースレターをお届けします。